

重要物資所要量調

種別	總量	單位	三年度分
普通鋼々材	一四、七四	噸	卷、塊
型鋼	五、八三	噸	卷
軌條	一八、六〇	噸	卷
第三次製品	八、六三	噸	卷
(釘、針金、其他)	毛、六三	噸	卷
機器	五、七四	噸	卷
銑鐵及鑄鋼	一八、三	噸	卷
(機器用)	五、七四	噸	卷
電氣銅	二、三七	噸	卷
(電線及機器用)	五、七四	噸	卷
木材	五、七四	噸	卷
セメント	五、七四	噸	卷
燃料油	二七、三七	噸	卷
トランクタ	二一、一〇	噸	卷
同附屬農具	六、三〇	噸	卷
(バラウ、ハロー等)	三、九〇	噸	卷
蓄力用農具	三、九〇	噸	卷
拔根機	三、九〇	噸	卷
移動製材機	六、三〇	噸	卷
土工用車輛	三、九〇	噸	卷
(機關車共)	一、五〇	丁	臺
トラック	二、五〇	千	臺
開墾鋤他	七、五〇	千	臺
(鍬、鎌、鋸、鉈、斧等)	一、五〇	枚	臺
軍用手袋	一〇、九〇	千	枚
地下足袋	三、九〇	千	枚
毛作業衣	一〇、〇〇	千	着
布衣	二、二〇	千	着
	三〇		

臺灣人の歸還に關する計畫輸送

内地在留臺灣人は現在約三萬人で、内約一萬人は復員軍人、軍屬、元被徵用者であり、約二萬人が一般居留者（此内約五千五百人は學生）であるが、終戰後臺灣航路絶のため、歸還希望者も歸國不可能であつたが、政府は之が對策として、臺灣航路の再開を圖ると共に、昭和二十一年一月より計畫輸送を爲すこととし、左の如く方策を決定した。

一、出航港、浦賀、吳、鹿兒島、

一、到著港、基隆、高雄、

一、就航豫定船舶、長雲、夏月、鏡紫、日昌、CD 44號
十二月十九日浦賀出港ノ長雲丸ヲ第一船トシテ逐次就航ノ豫定ナリ

一、輸送順位、復員軍人、軍屬、元被徵用者、海外ヨリノ引揚者、一般在留者ノ順序トス

一、歸臺申込手續、復員軍人、軍屬、元被徵用者ニシテ夫々集團セル向ニ對シテハ收容所ノ責任者ヲ通シテ出發日、乘船港等ヲ通報スペキモ其ノ他ノ歸臺希望者ハ本月末日迄ニ居留地都道府縣廳宛、申込マレ度、其ノ出發日時、乘船港等ハ追テ地方長官ヨリ通知セラルベシ。

食糧輸入の許可

第一章 總則

昭和二十一年十一月二十四日附マツクアーサー司令部から食糧、棉花、石油、鹽の輸入を許可する旨の指令がなされた。その要點は左の如くである。
一、一九四六年度に輸入を許可さるべき食糧、棉花、石油、鹽の各商品の輸入量は世界市場に於ける需給關係、世界の船腹量及び日本が對價として何の程度の輸出能力を有するか等の事情に基いて決定される。

第一條 本法ハ團結權ノ保障ニ依リ勞働者ノ經濟的社會的並政治的地位ノ向上ヲ助ケ經濟ノ興隆ト文化ノ進展トニ寄與スペキ均等ノ機會ヲ與フルコトヲ目的トス
第二條 左ノ法令ノ關係條項ハ勞働組合ノ爲ニスル組員ノ前條規定ノ精神ニ基ク行爲ニ付テハ之ヲ適用